「心の教育・性教育・人間教育を考える会」10 年の本音①

臼杵百合子（日本保健医療大学）

日本子ども社会学会、大会において「心の教育・性教育・人間教育を考える会」として「ラウンドテーブル」での発表は、第 22 回（2015 年）から 31 回（2025 年）の 10 年間で 6 回となります。

これまでの 10 年を振り返り、また今後の 10 年を視野に「心の教育・性教育・人間教育を考える会」のラウンドテーブル発表者、『かけがえのない　いのち』執筆者、サポーターによる zoom 会議を開催しました。2 回の掲載です。

参加者は会のメンバー、大学教員・高校教諭・養護教諭・保育士・スクールカウンセラー・児童館職員・学校医・看護師・助産師・保護者（中・高生）・会のサポーターです。司会は、ラウンドテーブル司会の臼杵百合子です。

なお、文中に属性・氏名は略します。

【第 31 回大会での思い】

（司会）6 月に岩手で開催された第 31 回大会のラウンドテーブル（以下ラウンド）では、「性教育のこれから:包括的性教育とはⅡ」をテーマに「学童期児童の保護者への性教育アンケート②」と、「高等学校における性教育の現状及び、今後の課題」の発表でした。活発な質疑応答もあり、今後の課題も見いだせたラウンドでしたが、どのような感想を持たれましたか。

◎　学会初参加のラウンドで保育園の性教育現状を発表させてもらって以降、ラウンドには全て参加していますが、発表内容が年々充実し、今回は教育現場の若手の方々の発表もあり嬉しく、また活気がありました。以前は他の部会でも性教育に関する研究発表もありましたが、最近では見当たりません。性の問題はこの 10 年でますます複雑化、多様化して私自身理解していくのが大変な時代です。若手研究者による、今の時代を見据えた性教育のあり方に関する研究発表が欲しいです。それにラウンドへの学生の参加と問題提起もあれば、性教育の裾野が拡がるように思います。

◎　性教育に関心があったので、初めてサポーターとして参加しました。他の部会の発表も

聞かせてもらい、興味深い発表もありました。アンケート調査に協力したのですが、参加した事で一層関心が沸き、これからも学会に参加します。周りの人にも話したくなりました。

◎　いろいろな立場の人達が集まって、いろいろと意見交換するのがこのグループの特色なのですが、いつも最終的にはまとまり、方向性が決まりますね。どなたにも門戸は開けています。

◎　私は 10 年前のラウンドでは参加だけでしたが、今回は発表の機会を貰い、高等学校における「包括的性教育」推進の重要性を肌身で感じることが出来ました。「包括的性教育」は、まだまだ浸透していないので、この発表を機会に教職員が共に学び理解を深める体制を考えていきたいと思っています。

（司会）本当に、10 年振りの学会参加でしたね。経験を積んで来られた今が、発表の時期だったのだとあらためて感じました。今後を期待しています。

◎　昨年に続き二度目の発表でした。前回の「学童期児童の保護者への性教育アンケート」対象保護者は母親でしたが、性教育への意識の違いを知るために今回はアンケート対象者を父親にしました。前回は性教育、学校への思いが色々と書かれていたのですが、今回は、驚くほど記述がありませんでした。あまりにも少なかったのでインタビューを実施しましたが、答えづらいという印象です。父親は性教育に関心がないのか、そうした事もまだはっきりとわかりません。フロアーの先生方や、参加者からもアンケートの取り方等について質問やアドバイスを頂き、今後の課題としていきます。

　私は研究者でも教育者でもなく、中・高生の息子を持つ働く母親です。性教育についても特別関心があったわけでもなく、会のメンバーの誘いを受け勉強会を重ねるうちに、私にも保護者として、子育ての経験を通して出来ることがあると思い、二度の発表になりました。学問的な事は会の先輩に教えて貰い、コーディネーターの山田富秋先生（社会理論・動態研究所）から助言を頂き、貴重な学びの経験の機会に感謝しています。

（司会）彼女は、学ぶ姿勢が意欲的で市井の研究者になれると思います。ラウンドは、身近な問題にスポットを当て実践する市井の研究者を、輩出する場になる可能性が大いにあるように思います。

◎　ラウンドへの若い学生の参加が少なく、質問もないという状況や、性教育に関する発表もないことの要因の一つとして、性教育が教員養成大学はもとより、大学教育の中でカリキュラムに取り入れられていないことがあると思います。

◎　医療系の大学なので、保健師を目指す学生が友人から「思わぬ妊娠をしたが、どうしたらよいか」と相談を受け、婦人科受診とアフターピルを教えた経験から、同年代の知識の無さに驚き、正しい知識が持てる性教育を教えたいと。こうした学生が増えて欲しいと願います。それには、学生たちが学びたいと思えるような″魅力ある性教育″が必要ではないかと思いますが現状は、あいまいな「歯止め規定」に見られる一歩踏み込めない”無力な性教育“と言えます。開かれた「包括的性教育」の浸透に期待を持っています。

（司会）”魅力ある性教育“については、2 回目で話し合いたいと思います。

【ラウンドテーブル参加を振り返って】

（司会）北海道から九州までの、「性を心が生まれる・いのちの源」と思う様々なキヤリアを持つ女性たちが集まり、性に関する勉強会を続け、社会へのアプローチを模索していました。そのような時、メンバーが指導頂いていた山田富秋先生（当時松山大）から「学びませんか」とラウンド参加への声を掛けて頂いた事がきっかけとなり、22 回（2015 年）に「人間教育・心の教育・性教育」をテーマとして初参加しました。内容は教育現場、医療現場等から関わってきた性の問題についての現場報告でした。6 回のラウンドを振り返りたいと思います。各々の報告担当者から話してください。

◎　初参加では、仕事上話す事は慣れていたつもりでしたが、自分の思いが先立ち理論的に話せなかったことを思い出します。

（司会）初めての発表は皆そうでしたよ。23 回（2016 年）は 22 回の内容を精査検討し、エデンビスを基に性教育の現状把握の調査検討することになりました。

◎　話し合いの結果「中学校・高等学校養護教諭への性教育に関するアンケート調査」を実施することになり、アンケート用紙をメンバー所属大学名で、全国中学校・高等学校各 500 校、無作為抽出計 1000 校に配布。2015 年配布 2016 年回収、回収率は中・高共に 50%以上。校種別、養護教諭の年代別等の解析等、また『若者の性白書』（第七回、青少年の性行動全国調査報告）との比較検討等を行い、結果について第 23 回ラウンドで、中間報告をしました。主な内容は、性教育の充実には中・高共に「自己肯定感を高める教育」「現実に即した情報提供」「心を育てる人間教育」が必要との認識が高い比率で示されていましたが、当時関心が高まってきていた性的マイノリティに対しては、関心は高いものの現状把握に基づく指導は、今後の課題と推測されるとの報告をしました。

◎　このラウンドでは、現代の若者に欠如しているとされる自己肯定感をいかに育くむかが、大きな課題となりました。

（司会）24 回（2017 年）は、「中学校・高等学校養護教諭への性教育アンケート調査」最終報告をしました。

◎　主な内容は、中・高共に「子どもと性をとりまく現実」を望ましくないものと捉え「性行動のカジュアル化の要因」として知識の乏しさ、ポルノメディア、人間関係の希薄さを問題視し、性教育実施上における配慮事項で一番多く抽出されたキーワードは「家庭環境」への配慮でした。自由記述には、問題の一つとして教師間での性教育への温度差が指摘されていました。そして、心の教育・人間教育としての性教育を行いたいが中・高では遅い、幼児から大学までの、一貫した性教育の必要性が訴えかけられていました。性教育の原点は幼児教育からとの認識を新たにしました。

◎　幼児への性教育の現状を知るために、まず予備調査として、子どもがお世話になった首都圏の幼稚園にお願いして「幼稚園児保護者への出生に対する教育アンケート」を 400

名の保護者に協力して貰い、回収率は60%以上と関心の高さがうかがえました。

（司会）その調査結果を検討し、質問事項も再検討して「出生についての教育アンケート」として全国調査を実施しました。北海道から九州まで地縁、血縁等あらゆる縁を駆使してアンケート趣旨を説明して、用紙を幼稚園・保育園に届け協力をお願いしました。配布・回収まで2017年6月から2018年12月までと、一年半を要しましたが、2210部配布して回収数は1457部、多数の保護者からの協力に、この結果をアンケート報告だけでなく何か形あるものにできないかと検討に入りました。

この２４回を契機に以後「心の教育・性教育・人間教育を考える会」として活動していくことになりました。ラウンドのテーマを「人間教育・心の教育・性教育」としていましたが、性教育は生殖教育でも性器教育でもない、心の教育であり人間教育であり全人格的、人間性そのものの教育であるとの思いから、性教育を真ん中に「心の教育・性教育・人間教育を考える会」とする事になりました。

◎　その当時、包括的性教育への認識はそれほどなかったのですが、全人格的教育の考え方は、包括的性教育と一致する部分があると思います。

◎　22回、23回、24回の毎年、本業もありながらの発表報告は、どなたも大変だったと思います。メインとなった調査報告だけでなく、学校医、小児科医、スクールカウンセラー、養護教諭等の現場からの実践報告に、性教育への理解がより深まったと感じました。

（司会）本当にそうだと思います。調査報告にそれらの実践報告が相まって、形あるものとして冊子作成となっていきました。そして学会参加は、冊子作成とコロナ禍もあり25回から28回まで不参加となりました。

【冊子『かけがえのない、いのち』の作成】

（司会）「出生についての教育アンケート」の調査結果は、幼児期における「心の教育としての性教育」は必要であり80%以上の保護者が家庭で行うという集計結果でしたが、しかし保護者には、いざ幼児に理解させるとなると、どのような言葉、表現を使えばよい

かが難しく、悩み戸惑いのあることがわかりました。

◎　そうした思いに寄り添い、専門家を結集して分かり易く伝える方法を試行錯誤、検討を重ねた結果、2021 年に冊子『かけがえのない、いのち』の誕生となりました。

◎　表現については何度も何度も書き直したり、誰が読んでも分かるようにと苦心しました。そんな時、作中のあの優しいイラストに癒され助けられました。

（司会）イラストはネットで偶然に作品を見つけたイラストライターに、趣旨を説明し依頼したところ、看護師さんで二人の幼児のママ、性教育に関心があるとの事が分かり驚きでした。冊子だけでなくメンバーからのアイディアで、警視庁の防犯標語「いかのおすし」のイラストクリアファイルも作成となりました。「いかのおすし」は警視庁の担当部署に、学会での発表報告等を添えて標語使用のお願い文書を出したところ、直ぐに許可され、とても可愛いい「いかのおすし」が出来ました。子ども達に大好評です。冊子、クリアファイル共に英語版も作成しました。

◎　学会参加が思わぬところで活かされ、嬉しかったです。

（司会）内容は、2 部構成として、第 1 章から 4 章は幼児の質問に保護者が答える形、5 章から終章は社会状況から見た保護者へのメッセージとしました。

◎　3 回のラウンドの討議を経て、性教育の原点は幼児からとの結論を導き出し冊子作成となりましたが、アンケート調査開始時点では、幼児への性教育は一般的ではありませんでした。しかし、2023 年度から文部科学省作成の教材及び指導の手引きによる「生命（いのち）の安全教育」が教育現場でも始まり、幼児期も含まれています。今後が楽しみでもあり推移にも関心を持っています。

（司会）『かけがえのない、いのち』を一人でも多くの人達に読んで貰いたい、手にして貰いたいとのの思いから、無料配布のための印刷代等捻出を目的にしたクラウドファンィングを行いました。責任者でしたが貴重な経験でした。決められた期間中、午前零時になると、その日の支援額と閲覧した人の年代、性別が時系列のグラフで送られてきました。どの年代が関心を持っているのか、実際に寄付した年代はといった事が分かり、リサーチには有用であり、興味深いものがありました。お陰様で多くの方々に賛同を頂き目標額を達成、一万冊を無料配布する事が出来ました。

◎　クラウドファンディングは、どうなる事かと、楽しみであり心配でもありの思いでした

が、全国に一万冊も無料配布出来た事で作成時の苦労も吹き飛びました。配布にもいろいろな方々が携わって下さり感謝です。幼稚園や保育園だけでなく中・高・大学・子どもクリニック・子供食堂・子育て支援センター・公民会、役所の窓口、それに北海道ではアンパンマンショップにも置いてあります。

（司会）ラウンドに 29 回（2023 年）から復帰、ラウンドから誕生した『かけがえのない、いのち』配布後の感想について報告しました。配布当初は幼児の保護者を対象と考えていたのが、二部構成によって幅広い年代に読まれている事が、寄せられた読後の感想から分かってきました。

◎　30 回（2024 年）に詳しく報告していますが、特に高校生の感想から、大人が彼らに寄り添い共に考える姿勢を示すことの大切さ、これが「心の教育・性教育・人間教育」であることが示唆されている内容でした。

◎　十代の若者、子育て世代、孫を持つ世代と幅広い世代から寄せられた読後感想から、私たちが思う性教育、心が生まれる、いのちがうまれ教育と言い続けてきたことが間違っていなかったと、勇気づけられました。

（司会）30 回（2024 年）からテーマを「性教育のこれから　包括的性教育とは」。報告は「学童期児童の保護者への性教育アンケート」と「かけがえのない、いのちを読んだ女子高生の感想分析から見える意識の変化とその後の行動変容について」でした。この 2 本については報告者が「子ども社会レポート」7 回と 8 回に思いを掲載しています。

【魅力ある性教育】については、次回に掲載します。